
Media information

(和訳)※原文(英語)については7ページ目以降をご参照ください

VPR18-021
2018年3月15日(木)

フォルクスワーゲングループ、全世界で電気自動車の生産を大規模拡大

- “Roadmap E”をさらに加速:2022年末までに電気自動車用拠点を16カ所に
- ヨーロッパおよび中国でバッテリーメーカーとのパートナーシップ契約を締結
- CEOマティアス ミュラー:「状況は大きく変化している。フォルクスワーゲンという巨大タンカーは、その進路を変えて、未来へ向けてフルスピードで前進している」
- 2017会計年度:ディーゼル危機による多額の現金支出にもかかわらず、過去最高利益を記録
- CFOフランク ヴィッター:「2017年の実績は、私たちが積極的に企業の変革を実行していることを示している。2018年も立ち止まることなく努力を続ける。」

ウォルフスブルグ/ベルリン、2018年3月13日

フォルクスワーゲン グループは、e-モビリティへの転換を推進しています。2022年末までに、世界各地の16カ所の工場で、電気自動車を生産する予定です。この計画は、ベルリンで開催されたフォルクスワーゲンAG年次記者会見で、マティアス ミュラーCEOによって発表されました。グループは現在、電気自動車を3カ所で生産しており、2年後にはグループ全体でさらに9カ所の工場で電気自動車の生産に向けて設備を整える予定です。環境に優しい電気自動車の大規模な生産のために必要となる十分な量のバッテリーを確保するため、ヨーロッパと中国において、バッテリーメーカーとのパートナーシップ契約を既に締結しました。既に締結されている契約の総額は、約200億ユーロに達しています。北米向けのサプライヤーも間もなく決定される予定です。

「ここ数か月間、私たちは“Roadmap E”を必要な速度かつ確固たる決意を持って実行するためにあらゆる障害物を取り除きました」と、CEOミュラーはベルリンで説明しました。昨年の秋に“Roadmap E”が開始されたとき、フォルクスワーゲン グループは2025年までに最大で300万台の電気自動車を生産し、グループ全体で80モデルの新しい電動車両を市場に導入する計画を発表しました。現在8モデルの電気自動車とプラグインハイブリッドモデルを展開しているグループのポートフォリオに、今年新たに9つのニューモデルが追加されます。その内の3モデルは電気自動車です。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

フォルクスワーゲン グループは、先週開催されたジュネーブ国際モーターショーで、アウディ「e-tron (e-トロン)」、ポルシェ「Mission E(ミッションE)」に加え、フォルクスワーゲン「I.D.(アイ.ディ.)」ファミリーの新メンバー、「I.D. VIZZION(アイ.ディ.ビジョン)」など、数多くのイノベーションを展示しました。2019年以降は、「ほぼ毎月」新しい電気自動車が発売されることとなります。ミュラーは次のように述べています。「それによって、今後わずか数年間で、すべてのブランドと地域において、世界で最も大規模に電気自動車を提供することを目指しています。」

これは、フォルクスワーゲンが従来の駆動システムと決別することを意味している訳ではないことをCEOは強調しています。ミュラーは、最新のディーゼルエンジンは、さまざまな課題を解決するための手段であり、問題を引き起こすものではないということを強調しました。それは、気候変動に関しても同様です。「私たちは未来のモビリティに対して多額の投資を行っていますが、何十年にも亘って重要な役割を果たし続けてきた現在のテクノロジーやクルマを軽視することはありません」と、ミュラーは続けています。「フォルクスワーゲンは、2018年に従来型の車両および駆動方式のポートフォリオに対して約200億ユーロを、今後5年間では合計900億ユーロ以上を投資する予定です。」

ミュラーCEOが議長を務める独立した委員会が設立され、将来の重要な課題であるグループのデジタル化を推進しています。「モビリティの未来は、フォルクスワーゲン グループの未来像とともに、徐々に形を表し始めています」と、ミュラーは語っています。その好例が「SEDRIC」です。フォルクスワーゲン グループは、このコンセプトカーによって、完全な自動運転の可能性を初めて示しました。「SEDRIC」はグループの垣根を超えて設計されましたが、間もなく「グループを離れ、特定のブランドによって、生産するための改良が行われるでしょう」と、ミュラーは発表しています。

2016年にスタートしたグループ全体の改革プランは、「日を追うごとに、より具体的で、明確で、確実なものになりつつあります」とミュラーは述べています。“TOGETHER – Strategy 2025”は、フォルクスワーゲンを覚醒させる原動力となりました。「2017年は、フォルクスワーゲン グループや各ブランドにとって、素晴らしい年となりました。私たちは攻勢に転じ、そしてそれを継続していきます。」とCEOは強調し、これは特にe-モビリティに当てはまることを付け加えました。「“Roadmap E”において、私たちの決意を表す力強いメッセージを発信しました」と、ミュラーは述べています。フォルクスワーゲン グループは昨年、自動車業界で最も包括的な電動化のための計画、“Roadmap E”を開始しました。

この再編は、グループ全体で既に結果となって表れています。「私たちは健全な財務基盤を持ち、戦略的に正しい立ち位置にいます」と、ミュラーはコメントしています。「状況は大きく変化しています。そして、私たちはさらに多くの計画を立てています。フォルクスワーゲンという巨大タンカーは、その進路を変えて、未来へ向けてフルスピードで前進しているのです！」

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

フォルクスワーゲン グループは、変革のために必要な財源を持っています。ディーゼル危機による多額の現金支出にもかかわらず、2017年末の純流動性資金は224億ユーロで、非常に健全な水準を維持しています。「2017年の実績は、私たちが積極的に企業の変革を実行していることを示しています。」と、CFOのフランク ヴィッターは述べています。「私たちは、2018年も立ち止まることなく努力を続けます」と、グループの好調な業績を反映し、ベルリンにあるフォルクスワーゲン グループ フォーラム「DRIVE」で初めて開催された年次記者会見の席でCFOは強調しました。

2017年の主要財務指標:ディーゼル問題にもかかわらず高い利益を計上

フォルクスワーゲン グループは、2017年度を好調な業績で締めくくりました。ほぼすべての主要財務指標において、過去最高の数値を達成しました。とくに注目すべきは車両販売台数です。2017年は、世界中で1,070万人のお客様に、フォルクスワーゲン グループの車両を選択していただきました。これは、グループ史上最高の販売台数です。この数値には、2017年に前年比5.1%増となる、420万台以上の車両を販売した中国の合弁事業の販売台数が含まれています(香港および輸入車を含む)。

グループの売上高も、2017年に新記録のレベルにまで増加しました。「グループの売上高は、前年比6.2%増の2,307億ユーロに達し、新記録を達成しました。」と、フランク ヴィッターCFOは説明しています。特別項目計上前および計上後の営業利益も過去最高で、特別項目計上前の営業利益は170億ユーロ、計上後の営業利益は138億ユーロでした。「特別項目を差し引いても、この数値はフォルクスワーゲン グループ史上最高の営業利益です」と、ヴィッターは述べています。利益の増加は主に、販売台数の増加、製品ミックスの向上、マージンに関連する要素、そして製品コストの改善によるものです。特別項目計上前の営業利益率は、前年度の6.7%から7.4%へ向上しました。

ディーゼル問題に関連する特別項目による損失は、前年度の64億ユーロに対して、2017年度は32億ユーロとなり、営業利益を圧迫しました。2017会計年度に発生したこれらの費用は、主に北米の2.0リッターおよび3.0リッターTDI車両の買い戻し、改修プログラムに関わる高額な費用、ならびに法的リスクの増加によるものです。

販売台数とは異なり、グループの売上高および営業利益には、中国の合弁事業の数値は含まれていません。これは、中国の合弁事業が、持分法を適用して決算報告書に計上されているためです。中国の合弁事業については、2017年に、前年度の50億ユーロを若干下回る47億ユーロの持分による営業利益を計上しました。さらに、電気自動車の開発、生産、販売を行うため、中国の安徽江淮汽車(JAC)と合弁事業の契約も締結しています。将来的にグループは、中国で生産した自動車を最初はフィリピンに、その後はその他の東南アジア諸国へ輸出する計画も立てています。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

2017年の財務結果は、前年の2億ユーロから1億ユーロに減少しました。税引き前利益は139億ユーロとなり、前年度の数字を66億ユーロ上回りました。税引き後利益は、116億ユーロ（前年：54億ユーロ）でした。2017年の税率は16.3%（同26.2%）と、非常に低い水準となりました。これは、年末に決議された米国の税制改革によるものであり、これにより、10億ユーロの一時的な現金収支を伴わないプラスの会計処理効果がもたらされました。

フォルクスワーゲンAGの株主に帰属する利益は、114億ユーロ（同51億ユーロ）となりました。ヴィッターは次のように述べています。「取締役会および監査役会は、1株あたり普通株3.90ユーロ、優先株3.96ユーロの配当を行うことを株主の皆様へ提案する予定です。」

2017年の研究開発費の大半は、ニューモデルの開発に加え、車両ポートフォリオの電動化、エンジンラインナップの効率化やデジタル化に充てられました。自動車部門における不動産、工場および設備に対する投資額は、前年と同レベルの126億ユーロ（同128億ユーロ）でした。自動車部門の売上高に占める研究開発費の割合を示すR&D比率は、6.7%（同7.3%）に減少しました。設備投資/売上高の比率も、6.4%（同6.9%）と大幅に低下しています。「私たちは、遅くとも2020年までに設備投資比率およびR&D比率を6%に引き下げるという目標に、引き続き取り組んでいます」と、ヴィッターCFOはベルリンで述べました。

自動車部門のネットキャッシュフローは、ディーゼル問題による多額の現金支出の結果、103億ユーロ減少し、60億ユーロのマイナスとなりました。これらの支出を除外したネットキャッシュフローは、将来に向けて実施している高レベルの設備投資にもかかわらず、約100億ユーロになるとヴィッターは示しています。さらに、「ネットキャッシュフローは、弊社の力強い事業活動を反映しており、強固な財務基盤を証明するものです」と付け加えました。2017年末の自動車部門の純流動性資金は224億ユーロで、堅調な水準を維持しています。

ブランドおよびビジネス分野

2017年におけるフォルクスワーゲン乗用車ブランドの売上高は、前年比24.3%減となる800億ユーロでした。これは、会計範囲となる企業の再分類によるものです。特別項目計上前の営業利益は33億ユーロ（同19億ユーロ）に増加し、特別項目計上前の営業利益率も4.1%（同1.8%）に上昇しました。ディーゼル問題に関連する特別損失は28億ユーロ（前年度合計：52億ユーロ）となりました。

2017年におけるアウディブランドの売上高は、前年度から8億ユーロの増加となる601億ユーロでした。特別項目計上前の営業利益は、前年度とほぼ同じレベルの51億ユーロ（同48億ユーロ）となり、特別項目計上前の営業利益率は8.4%（同8.2%）でした。ディーゼル問題に関連する特別

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

損失は4億ユーロ(前年度合計:18億ユーロ)でした。アウディ ブランドの主要財務指標には、ランボルギーニおよびドゥカティブランドの業績が含まれています。

2017年におけるシュコダブランドの売上高は、前年比20.8%増となる166億ユーロでした。営業利益は、とくに販売台数の増加と製品ミックスの向上を反映した結果、前年比34.6%増の16億ユーロとなりました。営業利益率は、前年の8.7%から9.7%へ向上しました。

セアトは、2017年も好調な業績を維持しました。99億ユーロの売上高は、過去最高だった前年度の数字を11.2%上回っています。営業利益は24.8%増加し1,910億ユーロ(同1,530億ユーロ)でした。販売台数の増加、製品ミックスのプラス効果、マージン関連の向上が、コストの増加によるマイナス要素を相殺しました。営業利益率は1.9%(同1.7%)でした。

昨年度のベントレーの売上高は、前年比9.2%減となる18億ユーロでした。営業利益は、5,500万ユーロ(同1億1,200万ユーロ)に減少しました。営業利益率は3.0%(同5.5%)でした。

ポルシェは、2017年に再び非常に好調な業績を記録しました。ポルシェ オートモービルは、前年比4.7%増となる217億ユーロ(同207億ユーロ)の売上高を達成しました。営業利益は、主に販売台数の増加を反映し、前年比7.2%増となる40億ユーロを計上しました。営業利益率は18.5%(同18.0%)となっています。

2017年におけるフォルクスワーゲン商用車ブランドの売上高は、119億ユーロ(同111億ユーロ)でした。営業利益は、生産ネットワーク拡大によるコストの上昇にもかかわらず、マージン、販売台数、為替レート、製品コストの最適化によるプラスの効果により、前年比87.6%増加して8億5,300万ユーロとなりました。営業利益率も7.2%(同4.1%)と大幅に改善しています。

スカニアの売上高は、前年比15億ユーロ増加し、128億ユーロ(同113億ユーロ)となりました。営業利益は、13億ユーロ(同11億ユーロ)に増加しています(前年度の数値は特別項目を除外)。これは、販売台数の増加と、サービス事業の拡大によるものです。営業利益率は10.1%(同9.5%)でした(前年度の数値は特別項目を除外)。

2017年におけるMAN商用車の売上高は、前年比10.8%増となる111億ユーロでした。営業利益は、販売台数の増加、および利益率の改善により、3億6,200万ユーロ(同2億3,000万ユーロ)に増加しました(前年度の数値は特別項目を除外)。将来に向けたプログラムの実施も、さらにプラスの効果をもたらしました。営業利益率は、3.3%(同2.3%)でした(前年度の数値は特別項目を除外)。

パワーエンジニアリング事業分野の売上高は、33億ユーロ(同36億ユーロ)に減少しました。営業

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

利益は、1億9,300万ユーロ(同1億9,400万ユーロ)でした(前年度の数値は特別項目を除外)。営業利益率は、5.9%(同5.4%)に向上しています(前年度の数値は特別項目を除外)。

2017年1月に営業を開始したポルシェ ファイナンシャル サービス事業の業績は、フォルクスワーゲン ファイナンシャル サービス部門の財務結果に含まれています。昨年度におけるフォルクスワーゲン ファイナンシャル サービス部門の売上高は、前年比15.5%増となる318億ユーロでした。営業利益は前年比16.9%増加し、過去最高となる25億ユーロを計上しました。この増加は、主にポルシェ ファイナンシャル サービスの売上高が追加されたこと、及び利益率の改善と事業の成長によるものです。

2018年の展望

2018年の販売台数は、前年度の数値を多少上回るとフォルクスワーゲン グループは予測しています。今年度の課題は、主に経済状況、競争の激化、為替レートの変動、ディーゼル問題などから発生すると考えられます。EUでは、乗用車および小型商用車に対して、排ガス、CO2排出量ならびに燃料消費量を測定するための、新しい、より時間のかかる試験手順(WLTP)が導入されます。

フォルクスワーゲングループの売上高は、前年比で最大5%程度増加する可能性があると思込んでいます。グループの営業利益に関しては、営業利益率が6.5~7.5%の間になると予想しています。

Media information

NO. 80/2018

Volkswagen Group to expand production of electric vehicles worldwide on a massive scale

- **“Roadmap E” is picking up speed: 16 production sites for electric vehicles by the end of 2022**
- **Future partnerships with battery manufacturers agreed for Europe and China**
- **CEO Matthias Müller: “Things are really moving. A change of course for the Volkswagen supertanker – full speed ahead to the future!”**
- **Fiscal year 2017: record earnings despite billions in cash outflows from the diesel crisis**
- **CFO Frank Witter: “The results of the year 2017 demonstrate, we are actively shaping the transformation of our company. And we will not cease in our efforts in 2018.”**

Wolfsburg/Berlin, March 13, 2018 – The Volkswagen Group is driving forward with the transformation to e-mobility. 16 locations around the globe are to produce battery powered vehicles by the end of 2022. This was announced by Matthias Müller, CEO of Volkswagen AG, at the Group’s Annual Media Conference in Berlin. The Group currently produces electric vehicles at three locations, and in two years’ time a further nine Group plants are scheduled to be equipped for this purpose. To ensure adequate battery capacity for the massive expansion of environmentally-friendly electric mobility, partnerships with battery manufacturers for Europe and China have already been agreed. The contracts already awarded have a total volume of around EUR 20 billion. A supplier decision for North America will be taken shortly.

“Over the last few months, we have pulled out all the stops to implement ‘Roadmap E’ with the necessary speed and determination,” CEO Müller explained in Berlin. When “Roadmap E” was launched last fall, Volkswagen announced plans to build up to three million electric vehicles annually by 2025 and market 80 new electric Group models. This year, another nine new vehicles, three of which will be purely electric-powered, will be added to the Group’s electric portfolio of eight e-cars and plug-in hybrids.

A number of innovations from the Group were presented last week at the Geneva International Motor Show, among them the Audi e-tron, the Porsche Mission E and the I.D. VIZZION, another member of the Volkswagen I.D. family. From 2019, there will be a new electric vehicle “virtually every month”, Müller said: “This is how we intend to offer the largest fleet of electric vehicles in the world, across all brands and regions, in just a few years.”

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

The CEO made a point of emphasizing that this did not mean Volkswagen was turning its back on conventional drive systems. Modern diesel drives were part of the solution, not part of the problem, he stressed – also with regard to climate change. “We are making massive investments in the mobility of tomorrow, but without neglecting current technologies and vehicles that will continue to play an important role for decades to come,” said Müller. “We are putting almost EUR 20 billion into our conventional vehicle and drive portfolio in 2018, with a total of more than EUR 90 billion scheduled over the next five years.”

A separate Committee chaired by CEO Müller is advancing digitalization in the Group, a key issue for the future. “The future of mobility is gradually taking shape, as is the future of the Volkswagen Group,” Müller said. The best example of this is SEDRIC, which has enabled the Volkswagen Group to demonstrate the potential of fully autonomous driving for the first time. SEDRIC was designed in the Group, but will soon be “leaving the Group for refinement into a series product at one of our brands,” Müller announced.

The transformation of the entire Group that got off the ground in 2016 is becoming “more concrete, tangible and discernible with every passing day,” said Müller. TOGETHER – Strategy 2025 brought precisely the shake-up that Volkswagen needed. “2017 was an excellent year for the Volkswagen Group and its brands. We’re back on the offensive– and we intend to remain there,” the CEO stressed, adding that this was true for electric mobility in particular. “With ‘Roadmap E’, we have sent a powerful message of our resolve,” Müller stated. The Volkswagen Group kicked off “Roadmap E”, the most comprehensive electrification drive in the automotive industry, last year.

The realignment was already paying dividends throughout the Group. “We are financially robust and strategically well-positioned,” Müller said. “Things are really moving. And we have plans for much more. A change of course for the Volkswagen supertanker – full speed ahead to the future!”

The Volkswagen Group has the financial resources for the transformation. In spite of the billions in cash outflows from the diesel crisis, net liquidity at the end of 2017 remained at a very solid EUR 22.4 billion. “The results of the year 2017 demonstrate, we are actively shaping the transformation of our company,” said CFO Frank Witter. “And we will not cease in our efforts in 2018.” The CFO underlined in Berlin, where the Annual Media Conference was taking place at the Group’s DRIVE. Volkswagen Group Forum for the first time, that the result reflects strong operational performance in the Group.

Key performance indicators for 2017: strong earnings in spite of the diesel issue

The Volkswagen Group concluded the 2017 fiscal year successfully. Record figures were achieved for nearly all key performance indicators, most notably in the number of vehicles delivered: 10.7 million customers worldwide – more than ever before – opted for a model from one of the

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

Group's brands last year. This includes vehicles sold by the Chinese joint ventures, which handed over 4.2 million vehicles to customers in the 2017 reporting period (including Hong Kong and imports), 5.1 percent more than in the previous year.

Group sales revenue also climbed to a new record level in 2017. "At EUR 230.7 billion, the Group's sales revenue was up 6.2 percent on the prior-year figure, which was a new record," CFO Frank Witter explained. Operating profit before and after special items was also better than ever, amounting to EUR 17.0 billion before special items and to EUR 13.8 billion after special items. "Even after deducting special items, this is the best operating profit that the Volkswagen Group has ever achieved," Witter said. The increase was primarily the result of positive volume-, mix- and margin-related factors as well as improved product costs. The operating return on sales before special items rose from 6.7 to 7.4 percent.

Overall, the operating profit was reduced by special items from the diesel issue of EUR –3.2 billion in 2017 compared with EUR –6.4 billion in the previous year. These expenses in the 2017 fiscal year were mainly attributable to higher expenses for the buy-back and retrofitting programs for 2.0 l and 3.0 l TDI vehicles in North America and to higher legal risks.

Unlike the figures for deliveries, the Group's sales revenue and operating profit do not contain the business with the Chinese joint ventures, since these are accounted for using the equity method. The joint ventures in the People's Republic generated a proportional operating profit of EUR 4.7 billion in fiscal year 2017, compared with just under EUR 5.0 billion in the previous year. In addition, a further joint venture was agreed with Chinese manufacturer Anhui Jianghuai Automobile (JAC) that will develop, produce and market electric vehicles. At a future date, the Group is also planning to export vehicles that will be manufactured in China – initially to the Philippines and later to other South East Asian markets.

The financial result decreased to EUR 0.1 billion in 2017 from EUR 0.2 billion in the previous year. Profit before tax rose to EUR 13.9 billion in the reporting period, exceeding the prior-year figure by EUR 6.6 billion. Profit after tax amounted to EUR 11.6 (5.4) billion. At 16.3 (26.2) percent, the tax rate was considerably lower in 2017. This was due to the US tax reform resolved at the end of the year, which led to a one-off positive, non-cash measurement effect of EUR 1.0 billion.

Earnings attributable to Volkswagen AG shareholders amounted to EUR 11.4 (5.1) billion. Witter: "The Board of Management and the Supervisory Board are pleased to be able to propose a dividend of EUR 3.90 per ordinary share and EUR 3.96 per preferred share to shareholders."

Research and development costs in 2017 were dominated by new models along with the electrification of the vehicle portfolio, a more efficient range of engines and digitalization. At EUR 12.6 (12.8) billion, investments in property, plant and equipment in the Automobile Division

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

remained at the previous year's level. The R&D ratio, total research and development expenditure as a percentage of the Automotive Division's sales revenue, decreased to 6.7 (7.3) percent. Capex/sales revenue was also lowered significantly to 6.4 (6.9) percent. "We remain committed to our goal to reduce the ratio of both capex and R&D to 6 per cent by 2020 at the latest," underlined CFO Witter in Berlin.

Net cash flow in the Automotive Division declined by EUR 10.3 billion to EUR –6.0 billion as a consequence of the high cash outflows from the diesel issue. Excluding these disbursements, the net cash flow would have been around EUR 10 billion in spite of the high level of capital expenditure for the future, Witter pointed out. "Net cash flow is a reflection of our strong operating business and is impressive evidence of our financial strength," he said. At EUR 22.4 billion, net liquidity in the Automotive Division at the end of 2017 remained at a robust level.

Brands and Business Fields

Sales revenue for the **Volkswagen Passenger Cars brand** in 2017 was down 24.3 percent year-on-year at EUR 80.0 billion. This was due to the reclassification of companies. Operating profit before special items rose to EUR 3.3 (1.9) billion. The operating return on sales before special items increased to 4.1 (1.8) percent. The diesel issue gave rise to special items of EUR –2.8 (previous year's total: –5.2) billion.

At EUR 60.1 billion, sales revenue for the **Audi** brand in 2017 exceeded the prior-year figure by EUR 0.8 billion. At EUR 5.1 (4.8) billion, the operating profit before special items was up on the prior-year level. The operating return on sales before special items stood at 8.4 (8.2) percent. The diesel issue gave rise to special items of EUR –0.4 (previous year's total –1.8) billion. The financial key performance indicators for the Audi brand also include the Lamborghini and Ducati brands.

The **ŠKODA** brand's sales revenue increased by 20.8 percent year-on-year to EUR 16.6 billion in the 2017 fiscal year. Operating profit improved by 34.6 percent to EUR 1.6 billion; the increase resulted above all from the higher volume and mix effects. The operating return on sales rose from the previous year's 8.7 percent to 9.7 percent.

SEAT continued its upward trend in fiscal year 2017. At EUR 9.9 billion, sales revenue exceeded the prior-year record figure by 11.2 percent. Operating profit improved by 24.8 percent to EUR 191 (153) million. Higher volume, positive mix effects and improved margins compensated for negative effects from cost increases. SEAT posted an operating return on sales of 1.9 (1.7) percent.

Bentley recorded sales revenue of EUR 1.8 billion in the past fiscal year, a decline of 9.2 percent year-on-year. Operating profit declined to EUR 55 (112) million. The operating return on sales stood at 3.0 (5.5) percent.

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

The 2017 fiscal year was once again very successful for **Porsche**: Porsche Automobile generated sales revenue of EUR 21.7 (20.7) billion, an increase of 4.7 percent. Operating profit improved by 7.2 percent to EUR 4.0 billion; the increase resulted primarily from the higher volume. The operating return on sales amounted to 18.5 (18.0) percent.

Volkswagen Commercial Vehicles generated sales revenue of EUR 11.9 (11.1) billion in fiscal year 2017. Despite higher costs resulting from expansion of the production network, operating profit climbed 87.6 percent to EUR 853 million due to margin, volume and exchange rate effects as well as product cost optimization. The operating return on sales improved significantly to 7.2 (4.1) percent.

Sales revenue at the **Scania** brand was up EUR 1.5 billion year-on-year at EUR 12.8 (11.3) billion. Operating profit (previous year's figure excludes special items) improved to EUR 1.3 (1.1) billion. This was due to higher vehicle sales and an expansion of the service business. In the reporting period, the operating return on sales (previous year's figure excludes special items) amounted to 10.1 (9.5) percent.

Sales revenue at **MAN Commercial Vehicles** rose by 10.8 percent year-on-year in 2017 to EUR 11.1 billion. Operating profit (previous year's figure excludes special items) improved to EUR 362 (230) million due to volume and margin effects. The future program also had a further positive effect. The operating return on sales (previous year's figure excludes special items) was 3.3 (2.3) percent.

Sales revenue in the **Power Engineering** Business Area decreased to EUR 3.3 (3.6) billion. Operating profit (previous year's figure excludes special items) was EUR 193 (194) million. The operating return on sales (previous year's figure excludes special items) rose to 5.9 (5.4) percent.

Starting January 1, 2017, Porsche's financial services business is reported as part of **Volkswagen Financial Services**. In the past fiscal year, Volkswagen Financial Services generated sales revenue of EUR 31.8 billion, 15.5 percent more than in the previous year. At EUR 2.5 billion, operating profit exceeded the previous year's figure by 16.9 percent, hitting a new record. Along with the inclusion of additional revenue from Porsche Financial Services, the increase resulted primarily from improved margins and business growth.

Outlook for 2018

For the year as a whole, the Group expects deliveries to customers of the Volkswagen Group in 2018 to moderately exceed the prior-year figure. Challenges in the current fiscal year will arise mainly from the economic situation, increasing competition, exchange rate volatility and the diesel issue. In the EU, there is also a new, more time-consuming test procedure for determining pollutant and CO₂

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

emissions as well as fuel consumption in passenger cars and light commercial vehicles (WLTP).

Sales revenue for the Volkswagen Group is expected to be up by as much as 5 percent on the prior-year figure. In terms of operating profit, an operating return on sales of between 6.5 and 7.5 percent is anticipated.

NOTE:

- ◆ Press text and images are available for downloading online at www.volkswagenag.com.
- ◆ Facts, photos and videos are also available for downloading in the **Volkswagen News-room app**. The app, which is available in German and English, can be downloaded from the Google Play Store/App Store.